

全国連盟通信

第32期 No.7

2017年9月12日

発行責任者

石川正三



新日本スポーツ連盟

〒170-0013 東京都豊島区東池袋2-39-2 大住ビル402

TEL: 03-3986-5401 FAX: 03-3986-5403

Eメール: zenkoku@njsf.net URL <http://www.njsf.net>

つなごう 支援の輪

すべての連盟組織が目標と計画をもって 「組織拡大運動」にとりくもう

新日本スポーツ連盟は、今年2月の評議員会で、会員数で10年近くの「現状維持」を打開し増勢に転ずる「組織拡大運動」を進めることを決めました。この運動は、困難な組織の問題解決を含め会員とクラブの拡大運動にとりくむことにより、より多くのスポーツ愛好者の要求にこたえるスポーツ連盟をつくる取り組みです。

目標は、自主目標を基本に全国的には10%増を目指すこととしています。

この方針に基づき各全国種目組織、都道府県連盟で目標や計画が検討され具体化の努力が行われています。ソフトボールやミックスバレーボール、神奈川のランニングセンターなどで、新たな発想で、愛好者やクラブ・チームの実態に寄り添い加盟・登録の取り組みが進められています。

また、北海道テニス協では、協議会存続の危機を乗り越える懸命な努力が続けられています。京都でバスケットボールの活動が開始されたことは新た

な希望です。

「組織拡大運動」は、すべての連盟組織が例外なく取り組む運動です。それぞれの連盟組織にはそれぞれの到達点や課題があることは当然ですが、そうした課題も組織拡大運動を通じて解決していくことが重要です。そして、特に各連盟組織の理事、運営委員など役員さんがまず組織拡大の呼びかけをおこない、具体的な計画作りを促進することに力を尽くしてください。

「スポーツきみが主人公」とフェアなスポーツ大会、スポーツ活動を広げることは、組織の所属を超えた多くのスポーツ愛好者、クラブ・チーム、スポーツ関係者の共通の願いとなっています。

こうした活動の推進力としてのスポーツ連盟を大きくすることこそ、国民のスポーツの権利を実現する基礎を築くものとなります。

「組織拡大」に知恵と力を尽くしましょう。

(全国連盟会長 和食昭夫)

▼スポーツ連盟の各地の活動から



①熊本で復興支援卓球大会を開催(120人参加) ②宮城県チームを東京の大会に招待～板橋区ミックス団体戦テニス大会 ③いつでも自由にレッスン～白馬でサマーテニスキャンプ(7/29～8/20)

第6回理事会報告

2017年8月27日 スカイプ会議

32期第6回理事会が、8月27日にスカイプを利用して東京事務所と全国6カ所を結び開催されました。6月の「組織拡大交流会議」以降、組織拡大への更なる動きが始まっています。今回、各地での取り組みや課題を取り上げ、意見交換と活動の情報共有で今後の可能性につながる会議となりました。

議論された主な内容と今後の活動

①組織拡大への取り組み

- ・組織拡大交流会議は6月3日に40名、4日に39名が参加。
- ・8月23日に第1回組織拡大推進委員会を開催し、「組織拡大推進ニュース」を9月1日に発行。
- ・全国ソフト協に高知の50チーム加盟の方向、課題の一つに分担金があり次回の12月理事会で柔軟に対応できるよう提起をする。
- ・神奈川の月例マラソン600名が加盟。「月例マラソンの運営委員で話し合って決めました。みなし連盟員というか、柔軟に考えて『月例マラソン』自体をクラブとして登録しました。約1500名が参加しています。組織拡大に団結しよう！今後の存続を考えて連盟に登録しよう！」との報告があった。
- ・6月以降の組織拡大の取り組みについての報告。全国スキー協は、全会員向けのアンケートを実施。宮城県連盟と宮城野球協の話し合いにより、宮城野球協が県連盟再加盟に向けて前向きに検討中。京都婦人バレーは申し込みが多いが体育館が少ないため断っている状態など。

②第32回全国スポーツ祭典(2018年)

- ・祭典スローガンは22件の応募があり、ネット投票で3位までの7件を選出。全国理事・評議員で再投票して決定する。(9月末投票締め切り！)
- ・スキーの開催地は2019年3月1～3日に新潟県のキューピットバレースキー場、陸上の宮城開催は困難で全国ランニングセンターに依頼している。陸上、水泳、野球、バスケ、ゴルフ、登山の役割担当者が決まっていない。責任者と開催地を早く決めたい。

③第31回全国スポーツ祭典(2016年)

- ・決算書を確認。復興支援グッズは10000個仕入れて7000個の販売だった。

④第33回全国スポーツ祭典(2020年)

・関東ブロックで10月21日(土)18時より実行委員会準備会を開催する予定。

⑤2017年反核平和スポーツのつどいin広島

・広島～長崎反核平和マラソンは、ランナー125名、サポーター68名、20年ぶりに沖縄より参加があった(3頁参照)。

⑥2020年被爆75年1800km反核平和マラソン

・スポーツ権・平和運動局の萩原局長から「通しランナーをメインとするのではなく、各ブロックで運営していく」等の開催要項案が提起された。今後はブロックとの調整を行い、12月理事会で最終提案できるよう検討していく。

⑦国際活動

- ・2017年広島～長崎反核平和マラソンに韓国体育市民連帯代表(キム・ドクチン氏)を招待した。
- ・2017年平和行進に、原水協の招待で韓国体育市民連帯のイ・ジェファンさんが参加。今後、スポーツ連盟の原水協加盟を検討する。
- ・2019年3月の全国スキー協50周年事業でFSGT3名招待。韓国体育市民連帯の招待は検討中。

⑧「スポーツのひろば」・広報

- ・「ひろば」購読数は、やや減少か横ばい傾向。
- ・なるべく全種目の記事を載せるよう努める。
- ・兵庫県連盟若者スタッフで座談会を開催した。

⑨総務関係

- ・分担金・会費と加盟のメリットについて資料集を作成中、リーダー養成のDVD制作は費用等で困難。
- ・女性ネットワークを広げるため会員の女性にアンケートを実施(別紙参照・10月末締切)。

⑩スポーツ科学研究所の活動

- ・第6回研究会(9月2～3日)を開催(7頁参照)。
- ・イギリスの「歩く権利」勉強会(12月23日)を予定。

⑪第33回定期総会に向けて

- ・機構・役員検討委員会の第一次報告があり、役員選考委員6名と議案起草委員7名を選出した。

⑫「防災ヘリの有料化」の問題

- ・埼玉県で防災ヘリでの救急業務を一部有料化とする条例が作られたことに対し、日本勤労者山岳連盟は、具体的内容の慎重な検討などを求める要望書を県知事に提出。スポーツ連盟も同様に要請運動に取り組む。
(全国事務局 福島邦夫)

「反核平和スポーツのつどい in 広島」が定着



広島～長崎 500km 平和マラソン出発



交流のタベ

2017年反核平和マラソン 交流のタベ



広島城マラソン

核兵器廃絶
8・6ヒロシマ平和マラソン大会
スポーツは平和とともに



碑めぐり



うたごえ交流



平和卓球大会



ピースウォーキング

2017 反核平和スポーツのつどい in 広島

碑めぐり	21人
反核平和マラソン交流のタベ	47人
懇親会	25人
広島城平和マラソン&ウォーキング大会	65人
広島～長崎500kmマラソン出発式	100人
広島～長崎500kmマラソンランナー&スタッフ	193人
江田島ピースウォーキング	13人
平和大好き卓球大会	286人

今年の「反核平和スポーツのつどい in 広島」は、7月7日に国連で「核兵器禁止条約」が採択され、ひとつの国民的な偉業を成し遂げた思いの中で開催されました。

このつどいに集まったスポーツ愛好者は、延べ750人に達し、スポーツマンがスポーツを通して反核平和をアピールする大きな運動となりました。碑めぐり、平和資料館めぐり、反核平和マラソン交流のタベ、飲み会交流、広島城公園平和マラソン&ウォーキング大会、33回目となる広島～長崎500kmマラソン出発式、ピースウォーキング、平和大好き卓球大会と充実した取り組みです。アピールと同時に、参加しただれもが「スポーツは平和とともに」のスローガンを実感できる取り組みになりました。

広島の暑い夏、1945年8月6日午前8時15分に、一発の原子爆弾が、地上600mで炸裂し、たった1.4秒間3000～4000℃の熱線とそれによって引き起こされた爆風は、人や建物を焼き尽くし、一瞬のうちに14万人が犠牲になり、熱線と同時に放出した多量の放射線が襲い、人体を破壊しました。この地球

上からすべての核兵器がなくなり、平和公園の平和の灯が消えるまで、核兵器廃絶の運動を広げようと気持ちを新たに「反核平和スポーツのつどい in 広島」でした。

今年は、広島、福岡、岡山、兵庫、大阪、滋賀、徳島、和歌山、静岡西部、神奈川、千葉、東京、沖縄、種目組織からは、全国ウォーキング協議会、全国ミックスバレーボール協議会、岡山卓球協議会、その他、スポーツ9条の会、東京のうたごえ協議会、そして、韓国から韓国体育市民連帯共同代表のキム・ドクチンさんが参加しました。

また、国民平和大行進には、東京～広島コースに90日間通し行進に参加した西田重好さん（滋賀県連盟）や広島～長崎コースの通し行進に参加したイ・ジェファンさん（韓国体育市民連帯）らの勇気を讃え、連帯のエールを送ります。

来年の8月5日に開催する「2018反核平和スポーツのつどい in 広島」には、全地域組織、全種目組織から参加者が集まる大きなイベントにしましょう。

（スポーツ権平和運動局 萩原純一）

現状維持を打破するために 各地で新たな動き

新日本スポーツ連盟の会員数は、ここ10年「現状維持」の状態です。

今年の2月に行われた評議員会で「10%増の4500人増やす」ことが提起され、それぞれの組織で自主目標として取り組むことが確認されました。組織拡大への動きを大きく加速するべく、6月には「組織拡大交流会議」が開催されました。各組織の課題、また前進した面の両面の報告があり、参加者同士で活発な議論がありました。またそれぞれの組織での問題点や組織間での協力体制等、今後どう前進させていくかを参加者が膝を交えて話し合い、今後の方向性を明確にしました。

交流会議後、全国ソフトボール協議会への多くのチーム加盟への動き、埼玉県でのウォーキングクラブづくり、横浜月例マラソン参加者611名加盟等、明るい光がいくつか見えてきました。全国連盟でも組織拡大推進委員会を組織して、現状維持を打破するためにどのような施策が必要かを考えていきます。

それぞれの種目や地域でのスポーツ要求は多様で日々変化しています。各組織でも理事会、運営委員会では必ず「組織拡大」の討論時間を設け、スポーツ愛好者の要求に応えられるよう、そして「10%増」の目標に向けて、全組織を挙げて取り組みましょう。

(スポーツ活動・組織局 宮内泰明)

「組織拡大交流会議」(6/3-4)以降の取り組みから

埼玉県にウォーキングクラブを ～東松山市を歩く

8月26日、「ウォーキング組織がない埼玉県にもクラブを作ろう」と、埼玉県東松山市でウォーキングを開催しました。参加者は、埼玉県内と関東各地から18名。スキー協会の細葉さん、滑川町でウォーキングの役員をされている横田さんはウォーキングの達人でした！ 今後も埼玉県連盟と、ウォーキングの達人たちの協力が得られるまでに発展。10～12月も、埼玉でのウォーキングを企画しています。

全国の皆さんに伝えたいことは、チラシを600枚印刷、団体・個人18か所に配布、大量宣伝が力になったこと、焦らず粘り強く1年～1年半かけるつもりでいること、その道の達人を見つけ出すことが成功につながるということです。(全国ウォーキング協議会 吉越悦子)



スリーデーマーチのまち東松山でのウォーキングに18名が参加

京都で初のバスケットボール祭典を開催！

8月11～12日、第1回バスケットボール祭典が久御山町総合体育館・山城総合運動公園体育館で行われ、社会人(女子)の部15チーム、中学生の部男女各5チームの合計25チームが熱戦を繰り広げました。

今回の大会は、スポーツ連盟のバスケットボール組織のない京都で府民のバスケットボール要求に応えるとともに、今後の京都でのバスケットボール組織作りの足がかりとすることを目的として開催されました。

(京都府連盟 増田博樹)

社会人の部優勝の斑鳩クラブ(奈良)



全国ソフト協、幅広い共同の構築を模索

8月9日、全国ソフト協・中村章次理事長と全国連盟で組織拡大に絞った話し合いを持ちました。

中村理事長からは「現在全国ソフト協は、静岡4チーム、京都14チーム、和歌山3チーム、福島22チームの組織となっている。高知ソフトボールリーグ(51チーム所属)からの『加盟して一緒にやっていきたい』との話があるので、これを具体化したい」との報告。

今後の取り組みとして、「ソフト協への加入の呼びかけなどの文書類を準備し、高知のリーグとの話し合いと単独チームへの呼びかけを開始し、平行して、全国ソフト協の理事会の合意を諮っていく」ことを確認し、新たな組織化に踏み出すこととなりました。



2017年 和歌山ソフトボール協議会が3チームで発足

よこはま月例マラソン 611名が加盟！

現在、神奈川県3ヶ所で開催されている「月例マラソン」には毎月約3000名のランナーが参加していますが、参加資格としてスポーツ連盟会員となる必要はありません。「いつでも、どこでも、誰もがスポーツを」の精神を実現している運営形態と言えます。1976年に横浜、川崎が、翌年に月例湘南マラソンがスタートし、40年以上にわたってそれぞれ独自の努力をして発展してきました。

ところが今、運営事務局の負担の増大、スタッフの高齢化などで、どの月例マラソンも「運営を続けることが困難」という問題を抱えています。解決の打開策としては、スポーツ連盟の力が必要です。そこで、横浜が先鞭を切って611名の会員登録をしました。運営を続けるために必要な財政基盤を築くことができるのか、今が正念場です。(よこはま月例マラソン運営委員会 佐藤好行)



よこはま月例マラソン紹介リーフレット

北海道テニス協議会の運営状況について

「組織拡大交流会議」では、運営理事の人材不足、運営作業の負担、運営資金不足などの理由で、北海道テニス協の継続が厳しく、2016年12月の会員数は100人(前期比マイナス425人)に減らざるをえなかったという報告がされました。

今年7月に開催された団体戦には、250名強の人が会員に登録して参加してくれました。ただし、例年の半分以下の登録数で、毎回ぎりぎりの運営となっています。

フェイスブックの閲覧数は多いですが、会員を取り込むまでにはなかなかつながらないところです。次年度に関しては、現時点で各大会において定員の半分ほどの参加者となっているため、大会数の削減は否めないと考えています。(北海道テニス協議会 前川由香)



↑新スポーツ団体戦

賞品がお米の全米オープン→



国民平和 大行進 2017

新日本スポーツ連盟では、だれもが気軽に参加できる平和活動として、ウォーキングクラブをはじめ都道府県連盟、各種目組織がこの国民平和大行進に参加しています。



兵庫



釣順信さん(兵庫スキー協議会)は、愛犬ぼんちゃんと一緒に10年間、平和行進を歩いていました。ところが、今年5月にぼんちゃんは、安らかに眠りについたそうです。

兵庫の平和行進で、参加者のアイドルだったぼんちゃん。「ピースドッグ」と呼ばれ、とても愛されていました。釣さんは、供養も兼ねて10日間、ぼんちゃんの遺影を背負い歩きました。いろんな人に声を掛けられ、遺影に手を合わせる人も。

そして、今年も釣さんは、10日間、歩き続けました。ぼんちゃんと一緒に。



岡山

岡山卓球協議会のメンバー 10名ほどで参加。2～3名ずつで引き継ぎながら5日間を歩きました。

韓

「国体育市民連帯」から、国際青年リレー行進者として、大学生のイ・ジェファンさんが広島から長崎までを歩きました。右は、36日間歩きとおした感想です。



イ・ジェファンさん
韓国体育市民連帯

日本に初めて来ることになったきっかけが平和大行進となり、特別に嬉しいです。

7月5日に広島を出発し、7日には国連で核兵器禁止条約が締結されました。嬉しいニュースです。

しかし、この条約には核兵器保有国はおろか、唯一の被爆国である日本や、北朝鮮に国境を接している韓国が参加していません。日本と韓国が米国の影響から抜け出してこの条約に参加すれば、より多くの国々の参加があると思います。

8月6日に長崎に到着するまでの1ヶ月間、1日も休まずに歩いてきましたが、大変だと感じなかったのは多くの仲間と一緒にだったからです。

その中で平和とは何か、平和運動とは何か、歩いた数だけ理解するようになり、私の体と心に平和という文字が刻まれました。死ぬ瞬間まで消えません。

皆さんに多くのことを学び、韓国に戻っても平和のために先頭に立ちたいと思います。

滋

賀県勤労者スキー協議会に所属の西田重好さん(原水爆禁止日本協議会・草津市平和委員会)が、通し行進者として「東京→広島コース」を歩きました。



西田重好さん
滋賀県勤労者スキー協議会

全国のスポーツ連盟の方々には各地を一緒に歩いてくださってありがとうございました。また、歓迎会やカンパなどをいただき、あわせてお礼申し上げます。

一番感動したことは、愛知県豊橋市桜ヶ丘高校で、プラスバンド、踊り、太鼓の演奏です。生徒たちが掲げていた横断幕には「戦争する国を許さず、憲法九条を守ろう！」。

今年は、憲法施行70周年。平和行進60年。国連では7月7日に核兵器禁止条約が制定。まさに節目の年に

歩くことができ、幸せな91日間でした。

今後は、この核兵器禁止条約を日本政府が批准する運動を強めること。そのためには多くの被爆者国際署名をもっと集め、世論を広めることが来年からの運動の課題になってくると思います。

♪九条と生きた70年 ♪これからもまた70年 ♪何がなくてもこれさえあれば(笠木透「平和の暦」より)
(「平和の暦」歌った回数226回、CD 236枚完売)

第6回A I S S (スポーツ連盟附属スポーツ科学研究所) 研究会は、9月2日(土)～3日(日)に京都駅烏丸口出てすぐの「キャンパスプラザ京都」で開催されました。参加者は延べで20名ほどでした。

初日はシンポジウム「障がい者スポーツの現状とパラリンピックの課題」がおこなわれ、シンポジストは金山千広さん(立命館大)、日野未奈子さん(リオ・パラリンピック視覚障害者マラソン伴走者)、チョン・キョンスさん(和歌山県立医科大)と全員女性で、それぞれスポーツ政策論、伴走者、医療・健康研究の視点から報告がありました。

報告と討論の中で、2020年東京パラリンピックでどのようなレガシーを目指すかという視点から、パラリンピアンとその関係者の費用、キャリア保障、練習場所、指導者、伴走者等の不足の問題が理解されるとともに、東京オリパラを障がい者の人権、一般市民である障がい者のスポーツ実践の保障と向上の起爆剤にしていくことの大切さが議論されました。

2日目の個人報告では、村下貫一さん(立命館大学生)、三谷舜さん(立命館大学院生)、島田勇登さん(和歌山大学生)の報告があり、最後に功刀俊雄さん(奈良女子大)の報告で締め括られました。



3名のシンポジスト

学生・院生3名の報告は、1つにはノベルト・エリアスの文明化論、2つにはヨハン・ホイジンガの近代文明批判の視点から、中世から近代への歴史の変遷の中で遊びやスポーツが果たした役割、また遊びやスポーツそれ自体の変化とその意味を明らかにしようという壮大な視野と課題をもつものでした。

功刀さんの報告は、日本の学校保健教科書、新学習指導要において、LGBTI(性的マイノリティ)の人権無視の記述や扱いが依然としてあり、国連やユネスコのLGBTIの人権宣言等からかなり隔たりがあること、そして日本の青少年の性的指向および性自認の困難さを問題とするものでした。オリパラでもLGBTIの扱いは避けて通れない問題であり、東京オリパラを契機に日本でも改善されるべきことが議論されました。(スポーツ科学研究所 青沼裕之)



30年以上在籍のクラブを表彰します！

30年以上の長きにわたり新日本スポーツ連盟のクラブとしてスポーツの発展に寄与したクラブを顕彰し、ともに祝いたいと思います。第33回定期全国総会(2018年3月)で表彰します。

ぜひ都道府県連盟、全国種目組織から30年以上在籍のクラブを積極的に申請してくださいませよう、よろしく申し上げます。

(顕彰要項は下記の通り)

- <顕彰基準> 1987年以前にスポーツ連盟に加盟し、現在も活動している在籍30年以上のクラブ。
但し、創立50周年で表彰されたクラブは対象外です。 *個人での顕彰はありません
- <申請方法> 都道府県連盟または全国種目組織から「第32期 顕彰 申請書」にて申請をしてください。
- <受付・表彰> 「第32期 顕彰 申請書」を全国連盟事務局で受け付け、申請されたクラブを2018年3月10～11日の第33回定期全国総会で表彰します。 *申請書がない場合は全国連盟まで
- <表彰状の贈呈> 対象クラブには、表彰状を贈呈します。
- <申請期間> 2017年12月末日までとします。

第32期全国会議及び主要事業予定一覧 (2017年9月～2018年3月)

月 日	全国会議・事業	都道府県連盟・全国種目組織
【2017年】		
9月	17～18日	ソフトボール東日本大会(静岡県)
	24日	石川県卓球大会・年代別(加賀市)
	9月30日～1日	全国ウォーキングフェスティバル(伊豆・踊子歩道)
10月	2日	「スポーツのひろば」11月号発行
	14日	愛知県連盟創立50周年記念式典
	21日	関東ブロック全国スポーツ祭典委員会
	29日	サッカーEast Japan Cup(神奈川県藤沢市)
11月	1日	「スポーツのひろば」12月号発行
	3日	全国年齢別水泳競技大会(東京)、福島反核平和マラソン
	4～5日	ソフトボール西日本大会(和歌山県)
	11～12日	全国6人制男女バレーボール大会(石川県金沢市)
	11～12日	第51回全国軟式野球大会(千葉)全国テニス大会(埼玉県川口市)
	11～12日	全国シニアサッカー大会(大阪府堺市)
	11～12日	全国スキー協理事会
	12日	サッカーWest Japan Cup(大阪府堺市)
12月	2～3日	第14回全国競技大会 バドミントン大会個人戦(愛知県愛西市)
	2～3日	全国ミックスバレーボール大会(宮城県気仙沼市)
	2～3日	第53回全国卓球選手権大会 一般の部(福岡県北九州市)
	5日	「スポーツのひろば」1・2月号発行
	10日	愛知高蔵寺弾薬庫一周平和マラソン
	9～10日	32期第7回理事会
	23日	イギリスの「歩く権利」勉強会
【2018年】		
1月	10～11日	全国縦断新春マラソン
	27～28日	第53回全国卓球選手権大会 年代別の部(愛知県豊田市)
2月	10～11日	32期第2回評議員会・第8回理事会
	25日	サッカーFinal Cup(大阪府堺市)
3月	10～11日	33回定期全国総会

* 追加・訂正があれば全国事務局まで随時ご連絡ください。

東北復興支援 「義援金」報告

第32回定期全国総会資料(2016年3月12-13日)以降の内訳 義援金募金

A義援金(スポーツ連盟支援募金)

大阪卓球協	2016/6/24	437,700
富山常願寺川マラソン・ジョギング大会	2017/4/14	10,000
富山パークゴルフ	2017/4/17	6,700

A義援金(スポーツ連盟支援募金) 充当状況

4 行事・競技会、ボランティア活動への支援金

春休み子どもスキー(岩手、宮城)	2016/3/15	400,000
全国卓球福島県卓球大会	2016/9/29	150,000
労山・子どもプロジェクト	2017/7/19	50,000
全国卓球福島県卓球大会	2017/8/3	150,000